

漢字工房 近代文学への誘い No.4 [最後の一句] 3年

偽名 → あ、おばあちゃん、おれ、おれ、ゆうじだよ!!

にせの名前。
うその名前。
なまえ

偽りの心 → 本当の気持ちではないこと。
ほんとうの気持ちではないこと。
まごころ

執筆 → 「小説の執筆にとりかかる」
ぶんしょう か 文章を書くこと。
しやうせつ 小説の執筆

執念 → 「執念で研究を続ける」
ひと つのことを深く思いこんで、そこからほつれなないこと。
しやくねん 執念

筆を執る → 先生へお元気かお元気か
ぶんしょう え 文章や絵などを書くこと。
ふで 筆

控え室 → 物事が始まるまで待っているための部屋。
ま 待つ
ものごとが始まるまで待っているための部屋。
へや

遣唐使 → 中国の文化や学問をとり入れるために、日本から唐人を連れてく使用。
ちゆうごく 中国の文化や学問をとり入れるために、日本から唐人を連れてく使用。
しんがし 遣唐使

仮名遣い → 「かんじ 漢字を習う」
かなづかい 仮名遣い
か かなづかい
なづかい 仮名遣い
が 漢字を習う

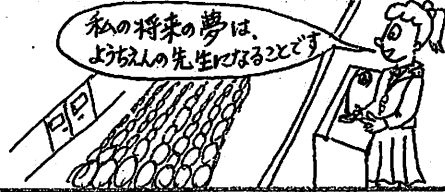
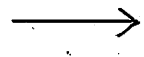
臆病 → 気が弱く、ちよとけてことでもこわがること
おそく 臆病
き 気が弱く、ちよとけてことでもこわがること

臆測 → はっきりわからないことを、だいたいこのころかと考えること。
おそく 臆測
はっきりわからないことを、だいたいこのころかと考えること。
かんが

漢字工房

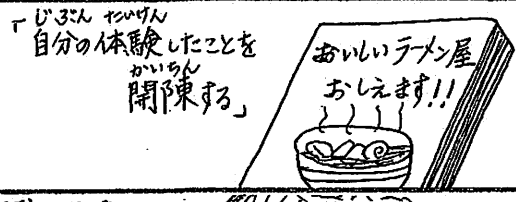
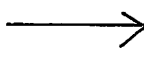
近代文学への誘い No.5 (最後の一句) 3年

ちん じゅつ
陳述



いけん かが ことば の
意見や考えを口頭で述べること。

かい ちん
開陳



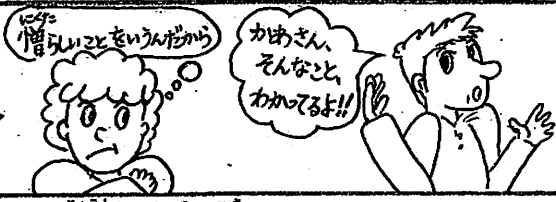
自分の意見や考えなどを申しのべること。

ぞう お
憎悪



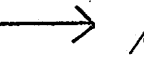
ひどくにくむこと

にくた
憎らしい



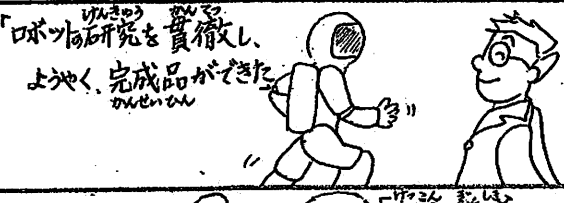
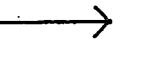
(かわいげがな) いかにも憎らしく思う。

てつ てい
徹底



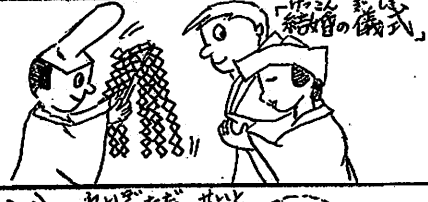
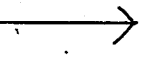
すみずみまで行きわたらせること。

かん び
貫徹



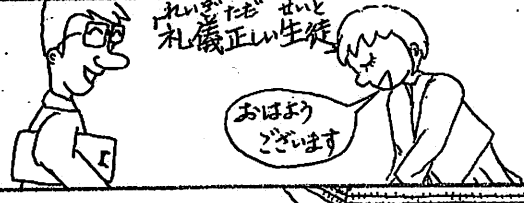
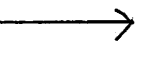
さいご 最後までつらぬきとおすこと

ぎ しき
儀式



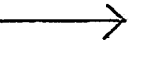
まつり、祝いごと、葬式など、決まった形で行われる式

れい ぎ
礼儀



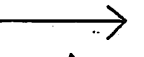
しゃかいせいめい 社会生活をしていく上で、他人に失礼なことをしないうにするための作法

しゃ めん
赦免



つが 罪や過ちを許すこと。

おん しゃ
恩赦



くに おめでたいことがあつたときなどに、法律を破った人のばつを軽くして罪を許すこと。